

後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌 Vol.38

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2012年3月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai



札幌大学野球部は現在、札幌学生野球連盟に所属し、同連盟が主催する札幌六大学野球リーグ(札幌学生野球連盟1部リーグ)で、他大学の強豪チームと熱戦を繰り広げています。しかし、2010年のリーグにおいて札幌大学は、6位となり、さらに2部リーグのチームとの入れ替え戦に出場。これにも敗退し2部リーグへの陥落という結果を招きました。そこから名門チーム復活を目指し、監督、選手、スタッフが丸ごと奮起。2011年の春季リーグ戦において10戦全勝と快進撃を続け、再び入れ替え戦に臨んだ結果、激戦を制して待望の1部リーグ復帰を果たしました。復帰直後の秋季リーグでは優勝を挙げ、プレーオフにまで持ち込み、準優勝、かつての強い札幌大野球部が帰ってきました。

そこで今回は、札幌大野球部を牽引する副部長、監督、キャプテンにインタビューを行い、名門復活までの道程をお聞きしました。



札幌六大学野球リーグに復帰し、快進撃!! 名門復活までの道程を語る!

「野球を通じて人間形成を図ってほしいですね。」



札幌大学野球部副部長 長浜 雅利 さん

私は札幌大野球部のOBであり、また、かつて監督も務めさせていただきました。現在は副部長として運営面や財政面など、主に後方支援を行っています。もちろん2部リーグへの移行が決まったときは残念でしたが、伝統ある札幌大野球部には多くのOBがあり、適切な指導や熱い声援がありました。札幌大野球部は良い意味で注目され、期待されているので、多くの意見が寄せられるでしょう。選手は、そんなプレッシャーをはねのけ、期待に応えたいかなければなりません。私たちは選手が少しでも力を発揮できるように、裏方として練習環境の充実に努めています。選手一人ひとりにキメ細かく目を配るために、スタッフの充実を長期的な展望として、少しずつ実現していきたいと考えています。部員も監督やコーチ、トレーナーの指導をよく聞き入れ、スポーツマンとしてまっとうな、それ以前に「二人の学生として、野球を通じて札幌やマナーなどを身につけ、人間形成を図ってほしいですね。」

2011年度のリーグ戦に臨むチームにも期待しています。優勝して全国大会に出場し、後援会の皆様から、一層のご支援をいただけるように頑張りたいと思っています。



札幌大学野球部監督 高石 克美 さん

札幌大野球部は2011年、春季リーグにおいて入れ替え戦に勝利し、1部リーグに復帰することが出来ました。大学後援会OBの皆様など日頃より応援くださった関係各位に厚く感謝申し上げます。監督として、また私自身も野球部のOBとして、2010年に2部リーグに移行したことには世間体な思いでした。しかし、この現実には屈したくない。メンタル面を含め、チームを立て直し、僅か2シーズンで1部リーグに復帰できました。2部リーグへの陥落が決まった時は、選手に特別な指導や発破をかけるようなことはしていません。私は、当時のチームも歴代のチームに引けを取らない実力を有していると感じていました。選手はその期待に応えたいという気持ちで、あはれ選手が闘争心を持っていました。あとは選手が闘争心を持って試合に臨むことができれば、必ず本来の実力を発揮してこれと期待しています。選手はその期待に見事に応えられたわけですね。復帰した秋季リーグでは2位に終わりましたが、プレーオフに進出し、最後まで優勝を争うことができたことは、期待以上の結果と言えるでしょう。

2012年度は、春季キャンプまでにさらにチームをまとめ、選手とのコミュニケーションを取り、一層の実力アップを図ってリーグ戦に臨みたいですね。選手の補強も行い、部員総数が80人前後の大所帯に膨れ上がりそうです。その中で切磋琢磨しベンチ入りできる25人を選んでいきたいと思っています。レギュラーメンバーや戦術面などは、コーチやトレーナーはもちろんです。チームをまとめるキャプテンとなった近藤の意見も取り入れ、リーグ優勝はもちろん、久しく遠ざかっている全国大会への出場を目指していく所存です。

チームをまとめ、強い札幌大野球部を復活させたいですね。



札幌大学野球部キャプテン 近藤 知さん

CONTENTS

- ・野球部(札幌六大学野球リーグ1部復帰).....1面
- ・札幌大学会社説明会 就職活動報告.....2面
- ・東日本大震災の復興に向けて ボランティア活動報告.....3面
- ・資格試験合格者の声 本学見学会(道川中学校) 保護者懇談会スケジュール 後援会長あいさつ 慶事、計報、編集後記.....4面

資格試験合格者の声

受講料の40%をキャッシュバック!~資格取得等奨励補助金制度があります~

講座終了直後の資格試験に合格した人、公務員講座において、出席良好で模擬試験等の成績が良好の人達に受講料の40%程度をキャッシュバックします。ぜひこの制度を活用して積極的にスキルアップを回ってください!

また、受講のメリットとして①専門学校と比較して受講料が1/2~1/5であること。②大学内で受講ができる。③専任プロ講師が直接指導する。④曜日、丁寧に指導する。⑤個別指導、再受講などのフォローアップにより合格率が高い。などがあげられます。

目標を持つことで毎日が充実。目標がかなった時の達成感は格別。



宅建合格!

法学部法学科3年生 佐藤 真美さん

私はこれから始める就職活動で1つのアピールになれば、能力開発センターで開講していた宅建を取ろうと考えました。

宅建を受講した理由は、社会的ニースが高いこと、法律資格であるということ、宅建を選びました。

実際に講座を受けてみると、とても難しくなかなか理解できませんでした。ですが、講師の方の笑いを交えたわかりやすい講義を受けていくうちに少しずつ理解できるようになりました。また、過去の問のプリントを出してくださるのでそれを生懸命やっていくうちに

丁寧に教えてくれる先生と、仲間がいたから頑張れました。



国内旅行業務取扱管理者合格!

外国語学部英語学科3年生 堀内 愛子さん

観光業に携わる仕事に就きたいと考えていて、就職に役に立つような資格はあるだろうか、と能力開発センターのパンフレットを開いたことが、わたしの資格取得への第一歩でした。

もともと旅行が趣味、ということで、大好きな旅行の知識を広げられたため、とても楽しく勉強できたことを覚えています。しかし、初めて学ぶ法律や約款、詳しくは、日本地理と同等乗り物の料金計算、復習を怠ると、みんなに遅れを取り、初めはなかなか焦っていた。そんな中で私が頑張れた理由は、少人数で、斉藤先生が丁

寧に二人ひとりに気配りをして下さったからだと思います。少人数だからこそ、負けたら合格しなさい、という連帯感も生まれた気がします。

試験は、国家試験にもかかわらず、迷うことなくスラスラ解けて試験の最中から自信を持ってできたことがありました。一緒に頑張ってきた仲間がいたら、挫折せず合格することができたと思います。国内旅行業務取扱管理者試験に合格することができたと思います。今回チャレンジして、やればできる」と実感しました。次回総合にも挑戦しようと考えています。

2011 すみかわ DAY



情報処理教室の見学

この数年、恒例となった「すみかわ DAY」。が昨年十一月二十二日に札幌大学で行われました。このすみかわ DAY は、札幌市立澄川中学校からの「将来にわたって学ぶことの意味と大切さを認識し、自らの進路を考えさせよう」という要望に応えるもので、札幌大学が生徒さんの訪問を受け入れるというものです。

札幌大学は、地域貢献を大学の果たすべき目的のひとつとして掲げ、このように小・中学校から希望の多い「総合的な学習時間」に対応するため、講義を聴講させたり、情報処理教室や図書館などの施設を開放しています。

今年度は3年生164名が参加し、ほとんどの生徒さんが初めて訪れる大学に本人たちは喜びを隠せず、また説明にあたった職員の話に熱心に耳を傾け、メモを取る姿も見られました。普段とは違う授業風景や充実した設備を目の当たりにして、卒業後の自身の進路に夢をはせている生徒さんも見受けられたほどです。

この後、生徒さんから、受験対策や大学の授業、学生生活などについて質問が寄せられ、事務局から説明がありました。

最後は、生徒さんの代表から、一日の感想と挨拶があり、「将来の進路選択に大いに役立った。自分も大学生生活を経験したい」との抱負が述べられました。

なお、この催しは次年度以降も行われる予定です。



図書館の見学

平成24年度 札幌大学保護者懇談会スケジュール

開催地	会場	5月	9月
札幌	札幌大学	26日(土)	15日(土)
釧路	釧路東急イン		8日(土)
青森	青森グランドホテル		8日(土)
帯広	帯広東急イン		9日(日)
函館	ロワジールホテル函館		9日(日)
北見	ピッツアークホテル		29日(土)
苫小牧	グランドホテルニュー王子		30日(日)
旭川	ロワジールホテル旭川		30日(日)

慶事 白老町長選「戸田安彦氏が初当選」

白老町長選において、本学の卒業生である「戸田安彦氏」が初当選を果たしました。氏は、平成7年度に設立された後援会胆振支部支部長「戸田実津夫氏」のご子息でもあります。

計報 山崎 初三郎 氏

平成23年11月10日逝去(平成元年初代後援会会長として平成13年3月迄貢献されました)

札幌大学後援会長あいさつ



札幌大学後援会長 対馬 徳昭

◆プロフィール 札幌大学経営学部経営学科卒業 ジャパンエググループ 代表

保護者である会員の皆さまとの連絡を密にし、相互の理解と協力により、大学の維持発展に寄与することを目的として、平成元年に発足されました。以来、教育指導や福利厚生など、多方面から支援活動を行ってまいりました。また、平成18年度からは、保護者懇談会を大学と共催し、教員が学生の修学状況や就職活動について直接ご説明し、保護者の皆さまからのご相談、ご要望にお応えしてまいりました。今年度も、札幌大学のほかに、道内6会場、東北1会場で開催し、多数のご参加を頂きました。次年度も継続して実施いたします。

本会の主な活動として、大学の奨学金制度への資金援助、学生の課外活動による遠征費や資格取得等奨励補助金制度への補助、外国人留学生への修学援助、保護者懇談会に係る経費の補助など、挙げられます。大学は、東日本大震災や深刻な経済不況などにより、学業継続の困難な学生や大学進学を断念せざるを得ない受験生を支援するため、各種奨学金制度の拡充を実施しています。本会としても、大学のこのような取り組みに対して、可能な限り支援していく所存です。

札幌大学は、地域密着型の大学を目指し、大学の果たすべき役割として「地域貢献」を旗頭としております。公開講座の開催や図書館・グラウンドの開放のほか、札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブ、めえいず、などを通じ、より一層皆さまとの連携と信頼作りを努めてまいります。これまで培われてきた札幌大学の伝統と特色を堅持していくためにも、札幌大学後援会は少しでもお役に立ちたいと考えております。今後とも会員の皆さまのご指導にご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

今回の後援会だよりでは、保護者の方々から驚きにかけている就職活動の様子を2月に行われた「札幌大学会社説明会」の会場取材しました。最近の企業は、どのような学生に期待し、どのような人材を求めているのかを、是非保護者の方々にお伝えしたかったので、直接、会場で企業インタビューをさせていただきました。企業の方々のご協力に深く感謝いたします。その他にも38号!今回も記事を満載しております。

東日本大震災の復興に向けボランティアを派遣! 瓦礫や泥と格闘し、被災者とふれあった7日間

未曾有の大震災により甚大な被害を被った東北地方に向け、札幌大学では学生24名、引率者3名の災害ボランティア団を結成。復興への願いと貢献への期待など、全ての思いを託し、見送りました。7日間の活動を無事に終えた引率の先生とメンバーに現地の状況や活動内容を聞ききました。

2011年3月11日の震災発生以来、札幌大学では何らかの貢献は出来ないか模索していました。半年が経過し、地元の受け入れ態勢が整ったと予想される時期にボランティア団を結成。結成にあたっては、大学からは旅費・学生に対する保険代、食事代等、また、後援会からは補助金でヘルメット・長靴などの安全用品を買わせてもらい、結団式を挙行。9月1日に出発しました。苫小牧から八戸までフェリーを利用し、海路現地入り。盛岡市社会福祉協議会が設置した宮古市のボランティア拠点「かわいキャン」をベースに、活動を展開しました。バスで被災地を視察し、大槌町では泥の撤去や河川の清掃、さらに被災者の方々のお話を聴くなど交流を深め、学生は逆に現地で多くのことを学び、元気をいただいたと、表情に充実感を漲らせていました。精力的なボランティア活動を終え、9月7日に帰札。本学到着後に学生代表から活動報告があり、出迎えた山田副学長から慰労の言葉が掛けられました。こうしたボランティア活動は、継続して行っていくことが何より大切と考え、大学では今後も復興に向けて微力ながら貢献を続けていく方針です。



私は以前からボランティアに関心があり、ベトナムにも貢献活動に行った経験があります。今回の大震災でも力になりたいと思います。参加を決めました。実は祖母が岩手県田老町に住んでおり、祖母自身は難を逃れましたが、住宅は津波で流されてしまったんです。私も何度も訪れ、思い出のある土地でしたので、ニュースで見た映像は衝撃的でした。慣れ親しんだ地域の復興に貢献したいと思いま



外国語学部英語学科3年生
吉田 通さん

祖母の笑顔を取り戻すために!

私は以前からボランティアに関心があり、ベトナムにも貢献活動に行った経験があります。今回の大震災でも力になりたいと思います。参加を決めました。実は祖母が岩手県田老町に住んでおり、祖母自身は難を逃れましたが、住宅は津波で流されてしまったんです。私も何度も訪れ、思い出のある土地でしたので、ニュースで見た映像は衝撃的でした。慣れ親しんだ地域の復興に貢献したいと思いま

した。今回は祖母の家があった田老町には行けませんが、派遣された被災地は、どこも見渡す限り瓦礫や泥の山。それを撤去する作業は重労働でしたが、私は陸上(長距離)をやっているので、体力には自信があり、もともとと働きたかったというのが本音です。

現在は祖母は札幌で私と一緒に暮らしています。ボランティア参加が決まった当初は、私が被災地に行くのを反対していましたが、今はとても喜んでくれていました。祖母を含め被災者の皆さんの笑顔を見たので、また機会があれば、是非参加したいと思っています。

最後に資金的な援助やヘルメット、安全靴など必需品を揃え、送り出していたいただいた大学、後援会など多くの方々のご協力に感謝しています。

震災を知り、個人的に被災地へ赴き、何かお手伝いできないかと思案していた時、本学がボランティアを派遣するという情報を得て、その一員に加えていただくことにしました。学生24名と私を含めた引率3名を加えた計27名で出発。現地に到着し、言葉を失いました。被災地は未だに生活道路が確保されているだけで、他も未だに瓦礫と泥の山。その中に、鉄骨や土台だけが残された家が散見されました。大槌町では堆積した土砂の片付けと、泥の中から貴重品や写真など被災された方の思い出の品金銭などを探し出す作業にも尽力し



札幌大学文化学部
井上 繁夫 准教授

学生の熱意に脱帽、今後も活動の継続を願って…

ました。水分を含んだ汚泥は重く、臭いも強烈で、大変な重労働でしたが、学生たちは嫌な素振りを見せず、額に汗を滂ませ、一生懸命作業に打ち込んでくれました。センターからはボランティアスタッフの体力を考慮し、30分に一度は休憩をとるように指示がありましたが、意欲的な学生たちにとっては、それは物足りなく、話し合いで休憩は45分に1度という時間割を了承していただきました。最終日はフェリー乗り場まで行くバスを待たせ、出発時間のギリギリまで作業していました。

今回は、現地の方々や他のボランティアと交流する機会も得ました。そこで改めて生命の尊厳、人と人の絆の大切さ、未来を信じる力など多くのことを再認識できました。今回、こうした機会を得られたことに、大学をはじめ後援会の皆様からも多大なご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「あり得ないところにあり得ない物が、被災地の現状に愕然!」

近藤 僕は今回の大震災を知って、何かになりたいかと思いき、個人的に被災地に行こうと考えていました。でも自分の怪我で、計画を延期していた時に、大学がボランティア団を結成し、連れて行ってくれることを知り、迷わず参加したんですが、小林君の参加動機は?

小林 イタリア留学から帰国して半年後に今回の地震が起きました。その時知り合った世界中の友人から心配するメールをもらって、その思いやりに感動したんです。僕は僕で被災地に何となく心を配し、無事を確認してホッとしました。しかし、大勢の方が過酷な状況に置かれていることは確かなので、その役に立ちたいと考えたのが参加動機です。

近藤 具体的な活動内容は、割当られた区画の瓦礫や泥を撤去する作業でしたが、泥の中から何が出てくるか分からず戸惑いましたね。

小林 ガラスの破片や思い出の品のほか、こんな物がなぜここにという感じで、驚きの連続でした。道路に自動車のバンパーも落ちていましたね。あり得ない場所であり得ない物があるという状況でしたね。

近藤 被災地では泥を取り除き、畑に再生しようという計画があるそうです。しかし、一度海水を被った土地は塩分の影響で表面の土を取り除いただけでは畑にならないらしく、その話を聞いて自分たちの作業は本当に役に立っているのかという疑問が出てきました。ボランティアは継続が何より大切であること、また、復興には時間がかかることを思い知らされましたね。

小林 廃校になった高校の校舎が宿泊地で、教室を部屋として寝泊しま



文化学部文化学科4年生
小林 良宏さん

したね。ボランティアで来ているという自覚があったので、恵まれた環境に申し訳ない気持ちでした。

近藤 被災された方々の話は身に詰まされたし、日本各地から来ていたボランティアの方たちとの交流も良い経験になりました。7日間という短い日数でしたが、有意義で濃密な時間を過ごすことが出来ました。

小林 多くのことを学んだ貴重な体験でしたね。大学、後援会、現地スタッフなど皆様のご協力があった、出来たボランティアでした。本当に感謝しています。

近藤 当初は現地のスタッフの指示に従って作業を進めました。後半は自分がA班の、小林君はB班のリーダーに任命され、他の方々の作業工程や安全管理など、責任が増えられましたね。

小林 今回の経験は、次に赴く際に生かせると思います。ですから、これが最初で最後ではなく、可能な限り活動を続けていきたいですね。今回のボランティアは一生忘れられない経験となりました。ありがとうございました。

人事担当者が語る、理想の人材像と内定獲得へのポイント!



有限会社エイチ・ピー・エヌ
代表取締役社長 廣崎 匡 さん

多くの学生が積極的に各企業ブースを回る姿が見られた今年の「札幌大学会社説明会」気になるのは今年の就職状況。そこで、今回参加いただいた企業代表者や人事担当の方に、求める人材像や内定獲得へのポイントなどをお聞きしました。

Q 札幌大学の卒業生は御社で活躍していますか?

A 札幌大学の卒業生は御社で活躍しており、大変活躍してくれています。「元気がある」というのが、札幌生のイメージですが、最近の学生に、その元気が感じられません。以前は遊んでばかりいると揶揄されていたようですが、これは言い換えるなら、元気の良い証拠。採用する側としては社交性や行動力が感じられて頼もしく感じます。元気な札幌生という、かつてのイメージを取り戻してほしいですね。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 昨年は東日本の大震災などもあって、経済状況は一層厳しさを増しています。しかし、これを良い教訓や経験として、辛いことも乗り越えていきたいと考えていますので、今年も価値観が合う方がいれば積極的に採用する方針です。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 私は「この人と一緒に仕事がしたい」と思った人を採用しています。人の印象は出会ってから7秒で決まると言われています。服装、髪型、話し方、仕草、そして何より目の輝き、学力やスキルよりも人間として魅力的な人を採用したいと思っています。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 私個人の印象としては、札幌出身者は真面目な人が多いと感じています。身近に札幌出身の方たちが働いていますが、地道にコツコツと積み上げるような仕事をすることが多いので、そう感じるのかも知れません。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 私は学生時代にバレーボールをやっていた。だからといって体育会系が良いとは言うわけではなく、何かに一生懸命打ち込んでいる人がいいですね。当社が取り扱っているのは建物の空調設備。決して表に出ないものであり、まして空気は目に見えないものです。いわゆる縁の下力持ちとして働かなければならず、地道で根気のいる仕事と言えるでしょう。それだけに、どんな仕事も黙々とこなしてくれる、堅実な人が良いですね。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 営業として2名採用したのは、自ら入社を希望してきた積極性と、適性テストの結果が良かった点を評価しました。当社は大きな会社ではないので、何でもやらなければならないかもしれません。それだけに特定分野の知識やスキルよりも、意欲的に挑戦する積極性や行動力が求められました。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近の学生と接して感じるのは、一般常識の欠如。興味を持って新聞を読んだり、ニュース番組を見るなど、とにかく幅広い知識を養ってほしいですね。また、コミュニケーションを取るのも下手ですね。そういう人は企業に自らをアピールする力がないので、内定獲得に歩及びません。クラブ活動やアルバイト、またボランティアなど、学内・学外活動に積極的に参加し、人と接する機会を増やせば、礼儀やマナーも身につけることができると思いますので、努力してほしいですね。

「札幌大学会社説明会」開催レポート

札幌大学では、2月8・9日の両日、本学第一体育館、第二体育館において「札幌大学会社説明会」を開催しました。学生に多くの企業と接する機会を提供し、就職に対する意識向上を図ることを目的に今年で8回目を迎えた同説明会では、両日合わせて161の企業、団体等が参加しました。



株式会社ドラール
代表取締役社長 布施 匡章 さん

Q 今年の採用傾向は?

A 昨年は東日本の大震災などもあって、経済状況は一層厳しさを増しています。しかし、これを良い教訓や経験として、辛いことも乗り越えていきたいと考えていますので、今年も価値観が合う方がいれば積極的に採用する方針です。



新菱冷熱工業株式会社 北海道支店営業課
主務 沼崎 淳也 さん

Q 今年の採用傾向は?

A マニュアル通りの言葉ではなく、自分の言葉で語れる人なら積極的に採用したいと思っています。就職戦線が厳しいことは、学生の皆さんはもちろん、企業も十分承知していますので、自分の適性や希望をしっかりと考え、間違いない活動を展開してほしいと思っています。

Q 今年の就職状況は?

A 私は札幌のキャリアカウンセラーという立場からも就職戦線を見ています。厳しい状況でも、企業の採用意欲が低下しているわけではありません。内定率が上がらないのは、企業との間にギャップがあるからで、企業側から見て、面接で聞かれるような質問に答えられない学生が多いことが原因です。企業は妥協してでも採用する意志はありません。学生が自らのレベルアップを図っていけば、その格差は埋められると思います。



経済学部経済学科4年生
金子 徹也 さん

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近の学生と接して感じるのは、一般常識の欠如。興味を持って新聞を読んだり、ニュース番組を見るなど、とにかく幅広い知識を養ってほしいですね。また、コミュニケーションを取るのも下手ですね。そういう人は企業に自らをアピールする力がないので、内定獲得に歩及びません。クラブ活動やアルバイト、またボランティアなど、学内・学外活動に積極的に参加し、人と接する機会を増やせば、礼儀やマナーも身につけることができると思いますので、努力してほしいですね。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近ではこの企業でも面接が一番重要視されています。エントリーシートなどで書いたことを話したり、自分であらかじめ考えていたことを話すとどうしても不自然になったりしてしまいます。普段からこのような場で話すことは少ないと思うので、一度失敗したからといって諦めないで、学内のキャリアサポーターセンターなどを利用して自然に話せるよう、練習してきました。

私は大学1年生から4年生までアメリカのカンファレンス部に所属しており、この企業を受けても4年間培ってきた体力と根性を押しよせました。私の場合部活動に頼っていませんでしたが、大学生活4年間を通じて得たものを必ず一つは作っておいたほうが、就職活動のエントリーシート、面接等で苦勞しなくて済むと思います。

最後に就職活動は人生で一度しかない貴重な経験です。失敗することもありますが、思いますが、その失敗をプラスに考え、最後まで諦めずに取り組んでください。

就職活動報告



私は11月終わりからインターネットでの就活サイトに登録し、誰よりも早く就職活動を始めていたと思います。目標は公務員試験に合格していましたが、公務員試験に合格し、北海道警察に合格することが目標だったため、登録と同時に4年生の夏頃に、ある試験に向けて公務員試験の勉強を始めました。一般の企業で面接の雰囲気などに慣れおく必要があり、少いですが興味味が湧いた企業は積極的にエントリーしていきま。結果的に5社から内定を頂き、目標であった公務員試験に合格することができました。私が就職活動において特に意識してきたことは、エントリーシートでも面接でも、自分の言葉で自然に思いを伝えられるかということ。自分が各企業で一番活かせるポイントを見つかるということです。

最近ではこの企業でも面接が一番重要視されています。エントリーシートなどで書いたことを話したり、自分であらかじめ考えていたことを話すとどうしても不自然になったりしてしまいます。普段からこのような場で話すことは少ないと思うので、一度失敗したからといって諦めないで、学内のキャリアサポーターセンターなどを利用して自然に話せるよう、練習してきました。

私は大学1年生から4年生までアメリカのカンファレンス部に所属しており、この企業を受けても4年間培ってきた体力と根性を押しよせました。私の場合部活動に頼っていませんでしたが、大学生活4年間を通じて得たものを必ず一つは作っておいたほうが、就職活動のエントリーシート、面接等で苦勞しなくて済むと思います。

最後に就職活動は人生で一度しかない貴重な経験です。失敗することもありますが、思いますが、その失敗をプラスに考え、最後まで諦めずに取り組んでください。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近ではこの企業でも面接が一番重要視されています。エントリーシートなどで書いたことを話したり、自分であらかじめ考えていたことを話すとどうしても不自然になったりしてしまいます。普段からこのような場で話すことは少ないと思うので、一度失敗したからといって諦めないで、学内のキャリアサポーターセンターなどを利用して自然に話せるよう、練習してきました。

私は大学1年生から4年生までアメリカのカンファレンス部に所属しており、この企業を受けても4年間培ってきた体力と根性を押しよせました。私の場合部活動に頼っていませんでしたが、大学生活4年間を通じて得たものを必ず一つは作っておいたほうが、就職活動のエントリーシート、面接等で苦勞しなくて済むと思います。

最後に就職活動は人生で一度しかない貴重な経験です。失敗することもありますが、思いますが、その失敗をプラスに考え、最後まで諦めずに取り組んでください。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近ではこの企業でも面接が一番重要視されています。エントリーシートなどで書いたことを話したり、自分であらかじめ考えていたことを話すとどうしても不自然になったりしてしまいます。普段からこのような場で話すことは少ないと思うので、一度失敗したからといって諦めないで、学内のキャリアサポーターセンターなどを利用して自然に話せるよう、練習してきました。

私は大学1年生から4年生までアメリカのカンファレンス部に所属しており、この企業を受けても4年間培ってきた体力と根性を押しよせました。私の場合部活動に頼っていませんでしたが、大学生活4年間を通じて得たものを必ず一つは作っておいたほうが、就職活動のエントリーシート、面接等で苦勞しなくて済むと思います。

最後に就職活動は人生で一度しかない貴重な経験です。失敗することもありますが、思いますが、その失敗をプラスに考え、最後まで諦めずに取り組んでください。

Q 御社が求める理想の人材像とは?

A 最近ではこの企業でも面接が一番重要視されています。エントリーシートなどで書いたことを話したり、自分であらかじめ考えていたことを話すとどうしても不自然になったりしてしまいます。普段からこのような場で話すことは少ないと思うので、一度失敗したからといって諦めないで、学内のキャリアサポーターセンターなどを利用して自然に話せるよう、練習してきました。

私は大学1年生から4年生までアメリカのカンファレンス部に所属しており、この企業を受けても4年間培ってきた体力と根性を押しよせました。私の場合部活動に頼っていませんでしたが、大学生活4年間を通じて得たものを必ず一つは作っておいたほうが、就職活動のエントリーシート、面接等で苦勞しなくて済むと思います。

最後に就職活動は人生で一度しかない貴重な経験です。失敗することもありますが、思いますが、その失敗をプラスに考え、最後まで諦めずに取り組んでください。

対談 貴重な体験となった 東日本へのボランティアを振り返って…



経営学部経営学科3年生
近藤 佳祐 さん

小林 イタリア留学から帰国して半年後に今回の地震が起きました。その時知り合った世界中の友人から心配するメールをもらって、その思いやりに感動したんです。僕は僕で被災地に何となく心を配し、無事を確認してホッとしました。しかし、大勢の方が過酷な状況に置かれていることは確かなので、その役に立ちたいと考えたのが参加動機です。

近藤 具体的な活動内容は、割当られた区画の瓦礫や泥を撤去する作業でしたが、泥の中から何が出てくるか分からず戸惑いましたね。

小林 ガラスの破片や思い出の品のほか、こんな物がなぜここにという感じで、驚きの連続でした。道路に自動車のバンパーも落ちていましたね。あり得ない場所であり得ない物があるという状況でしたね。

近藤 被災地では泥を取り除き、畑に再生しようという計画があるそうです。しかし、一度海水を被った土地は塩分の影響で表面の土を取り除いただけでは畑にならないらしく、その話を聞いて自分たちの作業は本当に役に立っているのかという疑問が出てきました。ボランティアは継続が何より大切であること、また、復興には時間がかかることを思い知らされましたね。

小林 廃校になった高校の校舎が宿泊地で、教室を部屋として寝泊しま

したね。ボランティアで来ているという自覚があったので、恵まれた環境に申し訳ない気持ちでした。

近藤 被災された方々の話は身に詰まされたし、日本各地から来ていたボランティアの方たちとの交流も良い経験になりました。7日間という短い日数でしたが、有意義で濃密な時間を過ごすことが出来ました。

小林 多くのことを学んだ貴重な体験でしたね。大学、後援会、現地スタッフなど皆様のご協力があった、出来たボランティアでした。本当に感謝しています。

近藤 当初は現地のスタッフの指示に従って作業を進めました。後半は自分がA班の、小林君はB班のリーダーに任命され、他の方々の作業工程や安全管理など、責任が増えられましたね。

小林 今回の経験は、次に赴く際に生かせると思います。ですから、これが最初で最後ではなく、可能な限り活動を続けていきたいですね。今回のボランティアは一生忘れられない経験となりました。ありがとうございました。